

まちづくりについての市民アンケート 調査結果

調査概要

(1) 調査目的

「人口減少」「少子高齢化」「頻発する自然災害」など、市を取り巻く様々な都市の課題に対応し、安心で快適な生活環境を維持していくため、将来を見据えた「住まいや生活に必要な施設の立地の在り方」や「交通利便性の確保」などの対策を盛り込んだ「立地適正化計画」の策定にあたり、市民の皆さまの生活実態や意向を反映するため

(2) 調査方法

広報あびこ、市ホームページ、SNS（市公式LINE）で募集し、WEBで回答

(3) 調査期間

令和7年8月1日（金）～8月31日（日）

(4) 回答結果

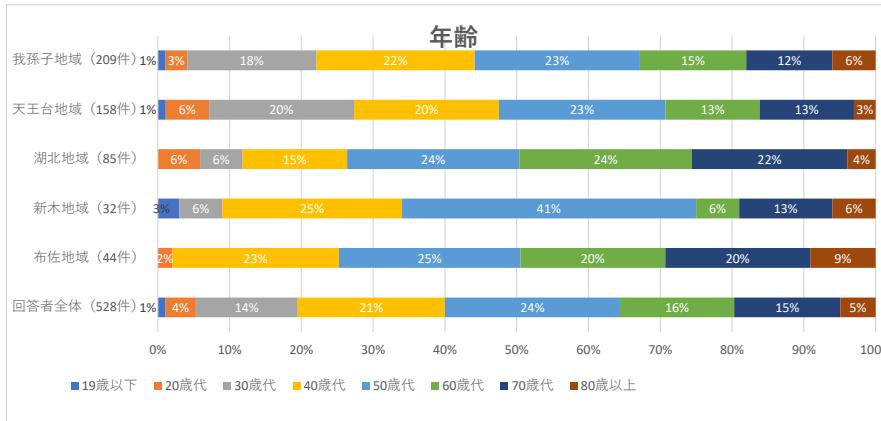
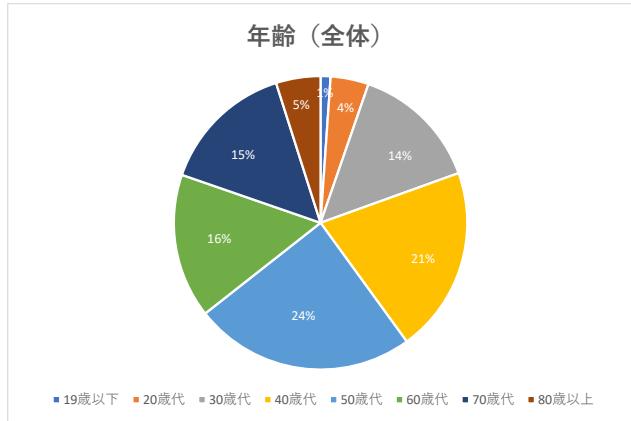
回答数 528件

(5) 調査項目

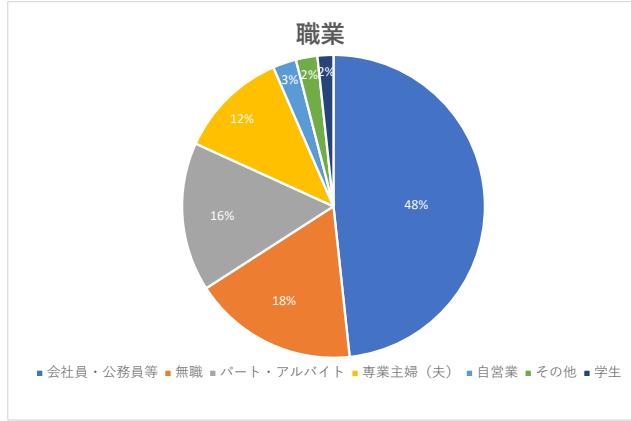
I 回答者の属性について	IV 地域拠点におけるまちづくりについて
年齢、職業、家族構成、お住まいの地域（大字名）、市内での居住年数、住宅の種類	問6 駅周辺に必要だと思う施設について
II 日常生活について	問7 ご自身のお住まいの近くに必要だと思う施設について
問1 普段利用する日用品を購入するお店（スーパー、ドラッグストア等）について	問8 ご自身のお住まいの地域の災害リスクについて
問2 普段利用する医療施設（病院・診療所）について	問9 ご自身のお住まいの地域の緊急避難場所や避難所について
III 居住意向について	問10 防災・減災のために市が取り組む必要があることについて
問3 今後も現在お住まいの地域に住み続けたいか	問11 災害リスクがある場所での住宅の立地について
問4 現在の地域から移りたい理由	VI これからのまちづくりについて（自由記述）
問5 日々の生活を送るうえで最も重要だと思うもの	

I 回答者の属性について

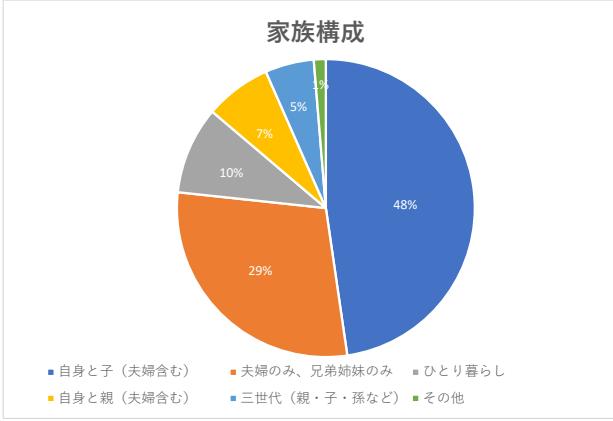
■年齢



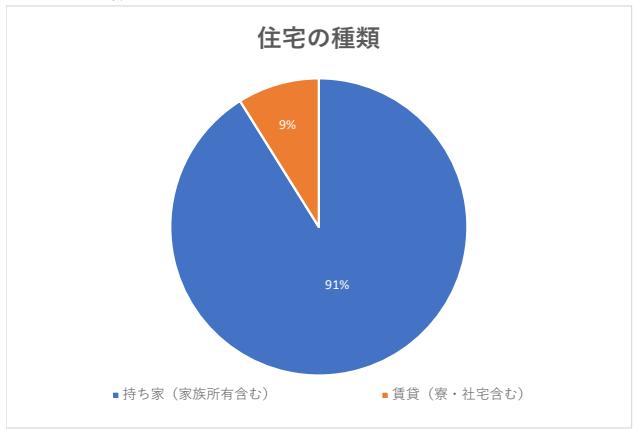
■職業



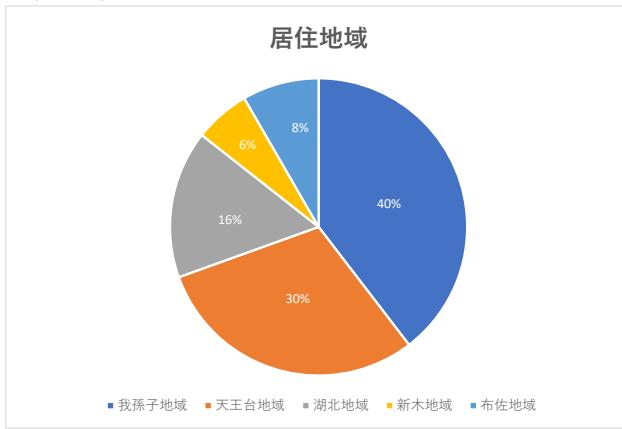
■家族構成



■住宅の種類

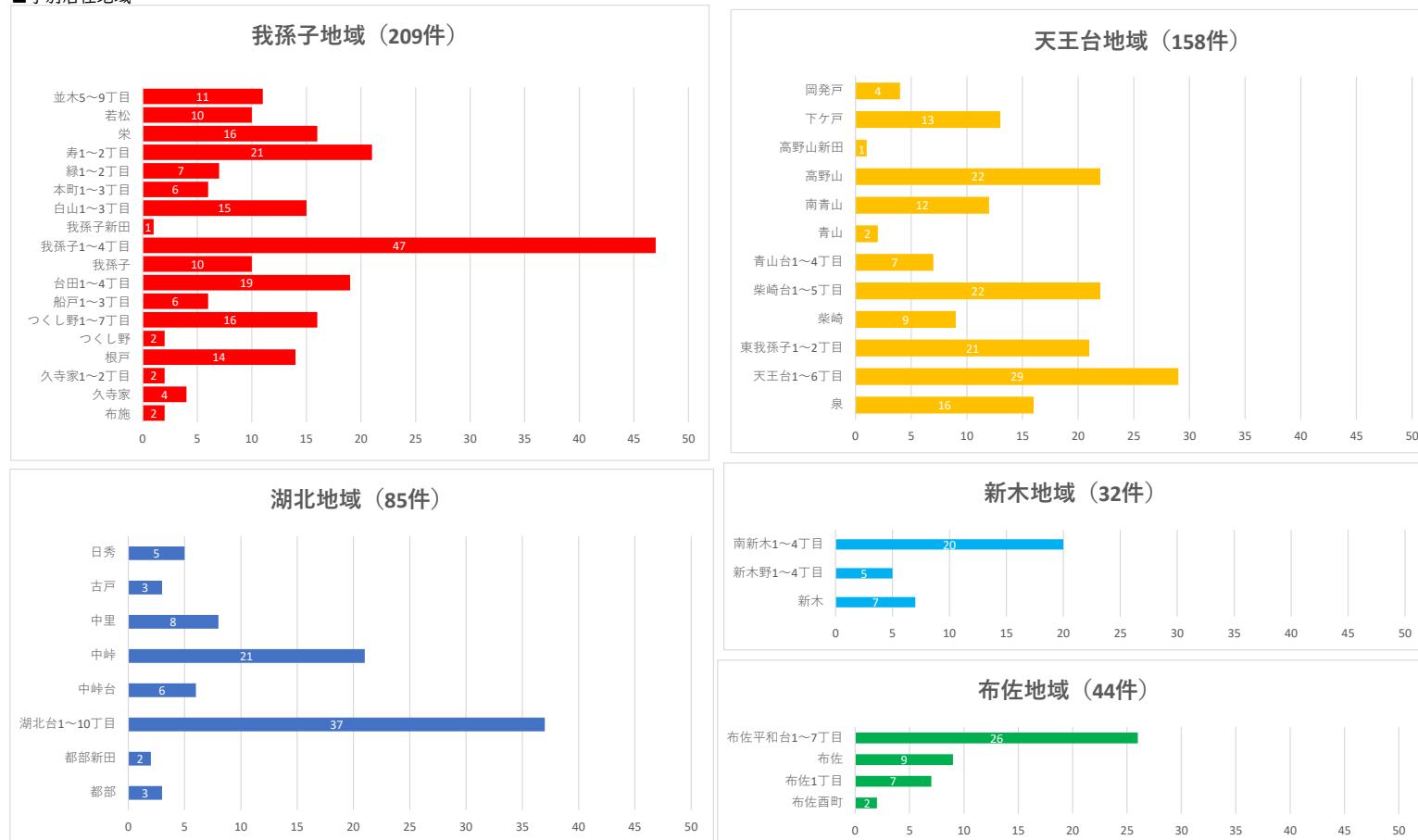


■居住地域

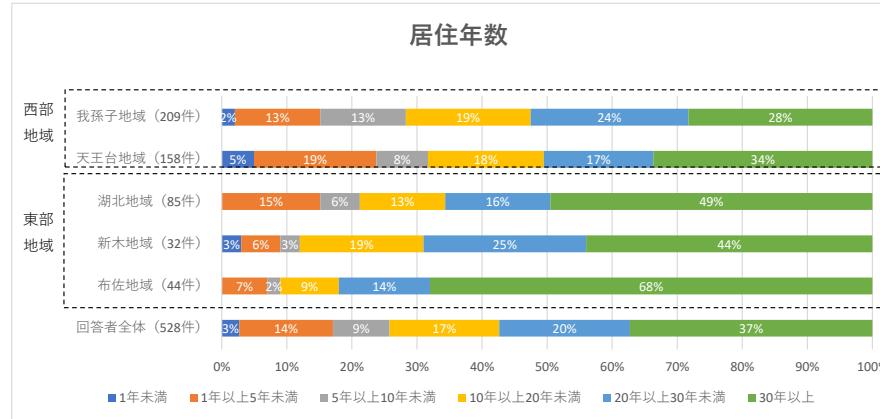
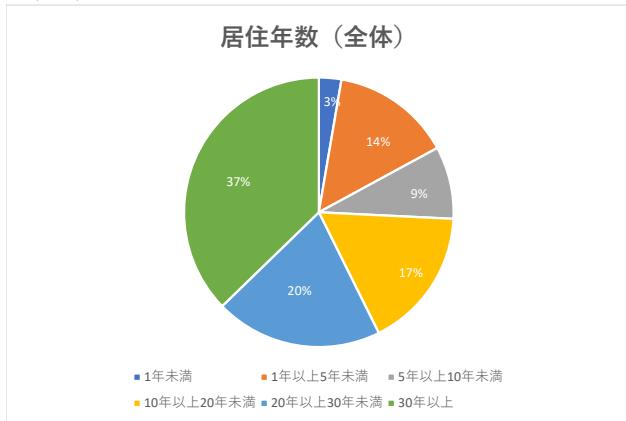


回答者の年齢について、「40歳代」と「50歳代」が全体の約半数を占めており（45%）、20歳代以下の回答は5%程度となっています。
居住する地域ごとに見ると、我孫子地区・天王台地区はほぼ同じ構成で回答者の6割が30歳代から50歳代となっています。
湖北地域は30歳代の回答が少ないものの（6%）、我孫子・天王台地区と比べ60歳代・70歳代の回答が多くなっています。新木地域は50歳代が全体の4割を占めており（41%）、布佐地区は40歳代～70歳代まで各年代とも20%程度であり、80歳以上の回答が他地域に比べ多くなっています（9%）。
職業は「会社員・公務員等」が約半数を占め（48%）、次いで「無職」（18%）、「パート・アルバイト」（16%）となっています。
家族構成は「ご自身（夫婦含む）と子」が約半数（48%）、次いで「夫婦のみまたは兄弟姉妹のみ」が約3割（29%）となっています。
住宅の種類は、「持ち家（家族所有も含む）」が90%を超えており（91%）、非常に高い割合となっています。
居住地域は、我孫子地域が4割、次いで天王台地域が3割となっています。字別でみると、各地域とも駅に近い字の回答が多い傾向にあります。

■字別居住地域



■居住年数



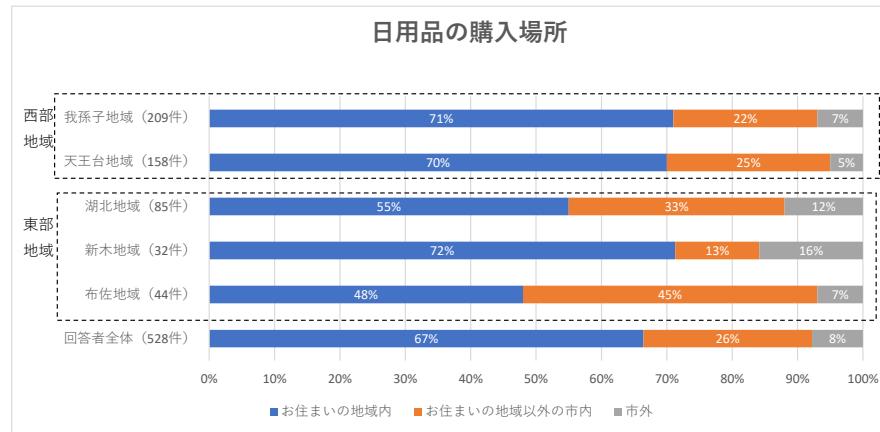
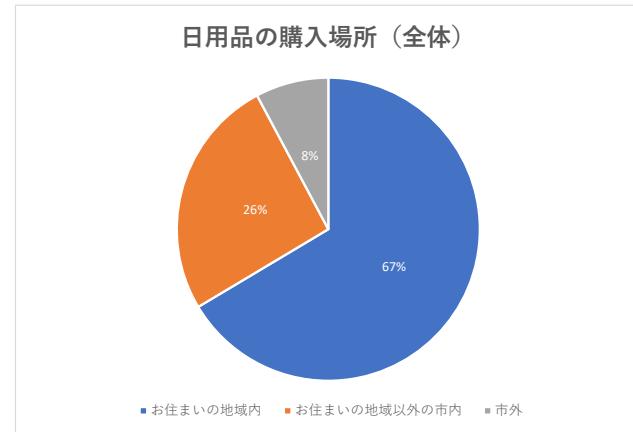
居住年数は、20年以上が半数を超えており、なかでも30年以上が約4割を占めています（37%）。

居住地域別にみると、東部地域で居住年数が長い傾向が強く、特に布佐地域は約7割が「30年以上」居住しており（68%）、回答者は古くからこの土地に暮らす人が多い傾向がありました。

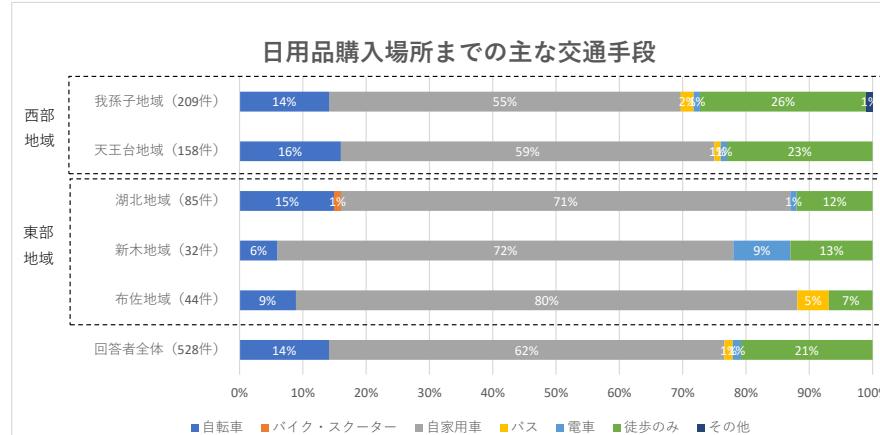
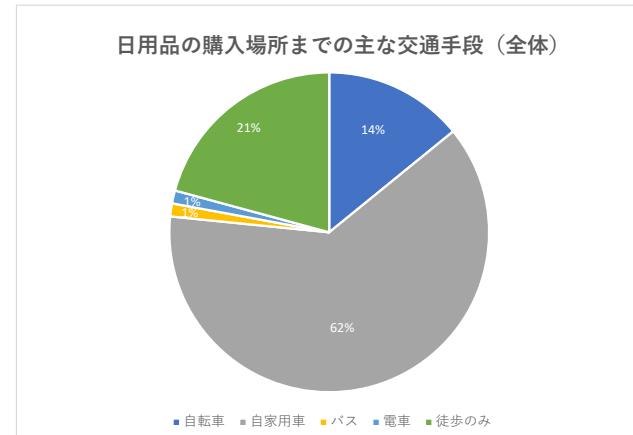
一方、西部地域の我孫子・天王台地域は居住年数「10年未満」が約3割となっており（28%・32%）、回答者は新たに居住する人が多い傾向がありました。

II 日常生活について

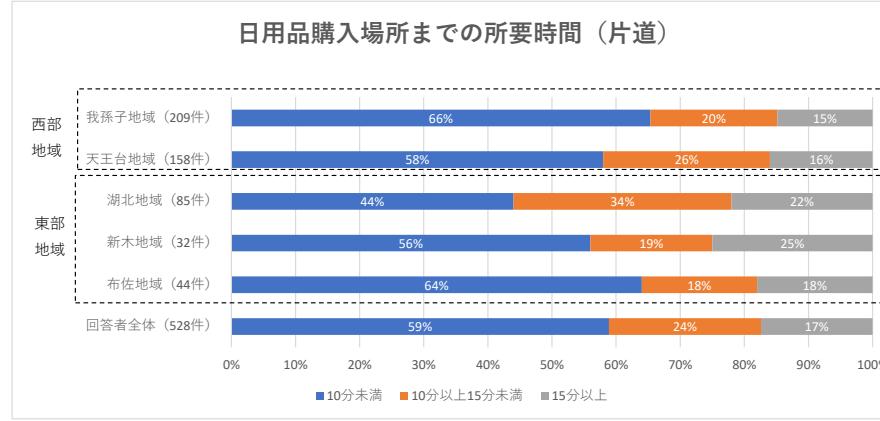
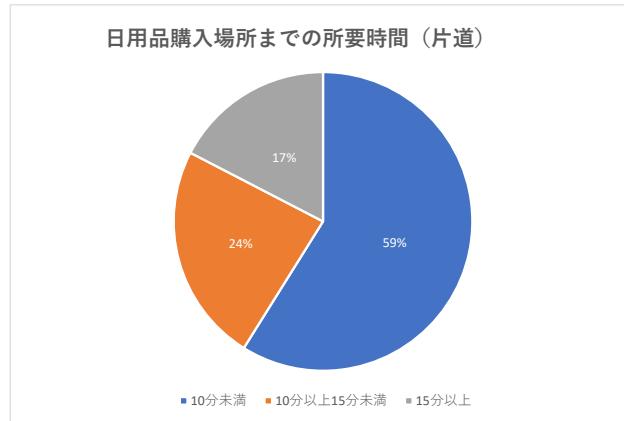
■日用品の購入場所



■日用品の購入場所までの主な交通手段



■日用品の購入場所までの所要時間（片道）



日用品の購入は、全体の9割強が「市内」で行っており（93%）、そのうちの67%が「お住まいの地域内（5つの駅を中心とした各地域）」となっています。居住地域別にみると、東部地域の湖北・新木地域は市外で日用品を購入している割合が全体に比較し高く、特に新木地域は他市に隣接している我孫子地域・布佐地域より市外の割合が高くなっています（16%）。

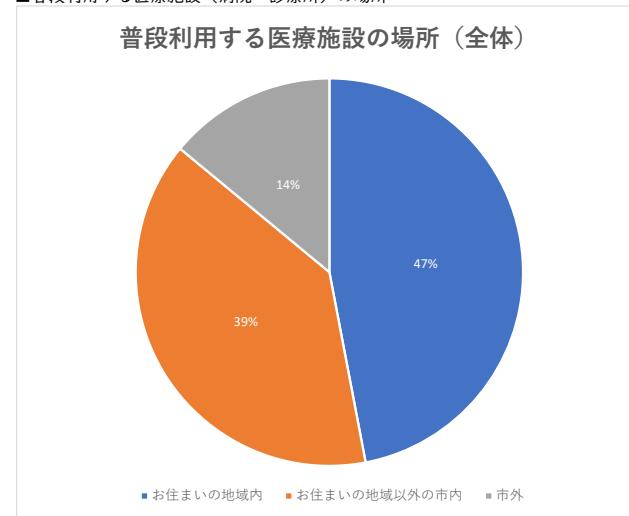
日用品購入場所までの主な交通手段は、「自家用車」が全体の6割強となっており（62%）、次いで「徒歩のみ」（21%）、「自転車」（14%）となっています。居住地域別では、西部地域の我孫子地域・天王台地域は「徒歩のみ」と「自転車」が全体の約4割を占め、東部地域に比べ高くなっています。利用者は多様な年齢層ではあるものの、駅から遠くなると高齢者が多くなる傾向があります。東部地域は総じて「自家用車」の利用が高くなっています。利用者は多様な年齢層で駅からの距離（遠い・近い）に関わらない傾向があります。

新木地域は「電車」（9%）、布佐地域は「バス」（5%）の利用が他地域に比べ高くなっています。「自転車」「徒歩のみ」については西部地域・東部地域とも駅周辺の商業施設に近い場所に居住する方の回答が多い傾向があります。

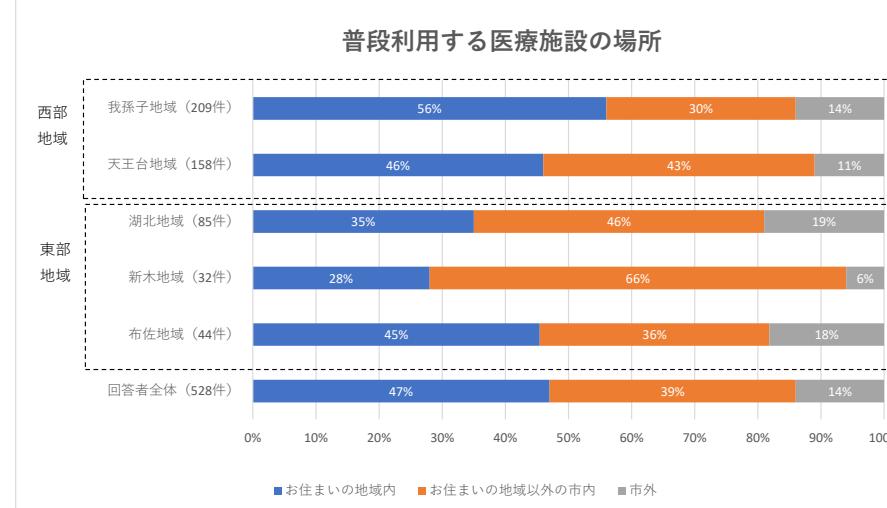
交通手段については、自動車を手放せば遠くとも徒歩・自転車が手段とならざるを得ないことが窺えるものの、回答者の全体的な傾向は自動車に頼れる年齢であり、遠くの商業施設も利用できていることが示されています。

購入場所までの所要時間は、全体では「10分未満」が約6割（59%）、次いで「10分以上15分未満」（24%）となっています。居住地域別にみると、湖北地域は「10分未満」の割合が他地域に比べて低く（44%）、「10分以上15分未満」の割合が比較的高くなっています（34%）。これは、日用品の購入場所はお住まいの場所から遠いことが考えられます。比較的市外の割合が多かった新木地域は、所要時間が「15分以上」の割合が比較的高くなっています（25%）、字別では新木及び南新木1～4丁目の割合が高くなっています。

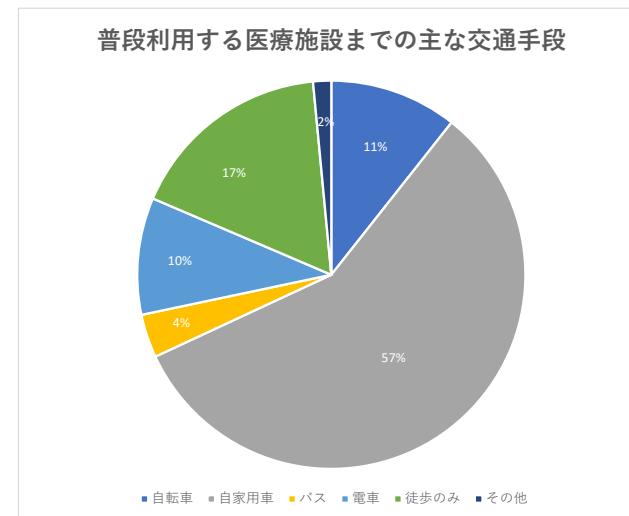
■普段利用する医療施設（病院・診療所）の場所



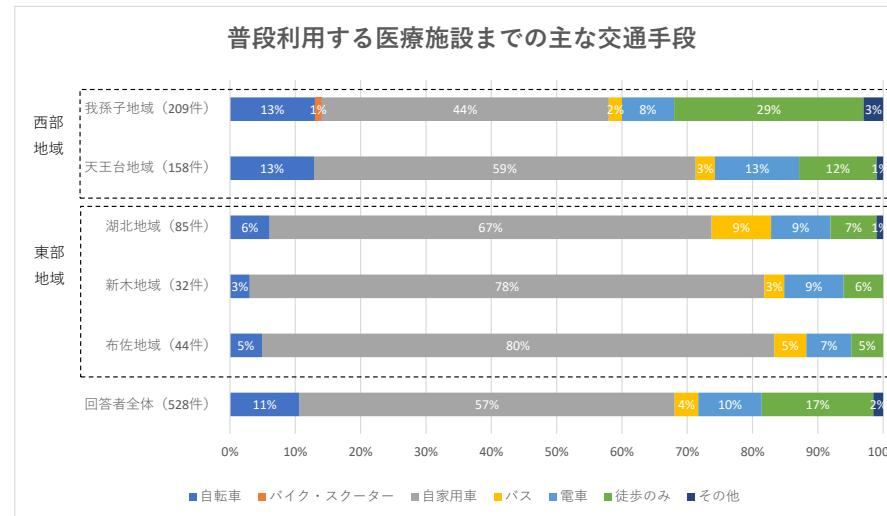
普段利用する医療施設の場所



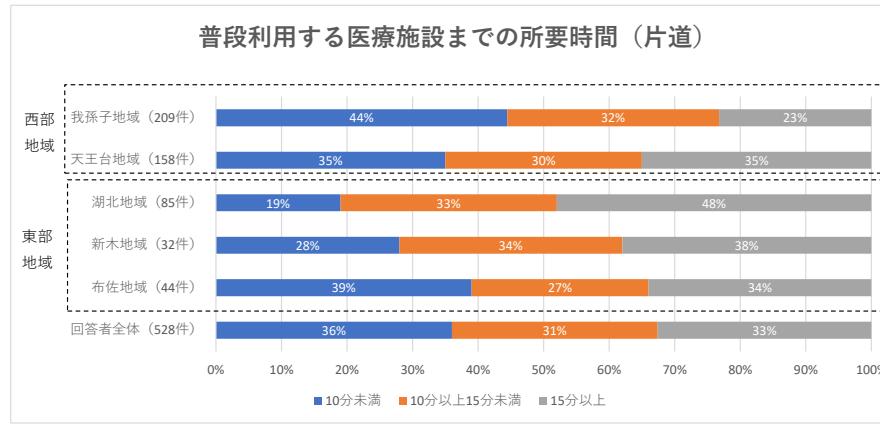
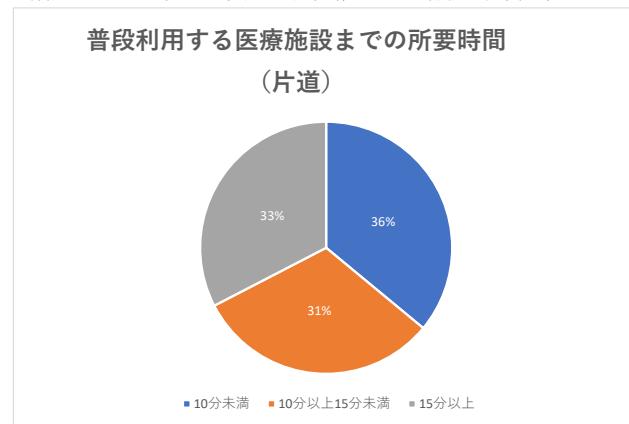
■普段利用する医療施設（病院・診療所）までの主な交通手段



普段利用する医療施設までの主な交通手段



■普段利用する医療施設（病院・診療所）までの所要時間（片道）



普段利用する医療施設の場所は、「お住まいの地域内」が約5割（47%）、次いで「お住まいの地域以外の市内」（39%）となっており、市内の医療施設が多く利用されていることがわかります。

居住地域別にみると、地域内に医療施設が多い西部地域の我孫子地域は「お住まいの地域内」の医療施設を利用する割合が高くなっています（56%）。地域内に医療施設が少ない東部地域の中でも、新木地域は「お住まいの地域以外の市内」の割合が高くなっているものの（66%）、「市外」の割合は他地域と比べて低い傾向となっています（6%）。また、東部地域の湖北地域は「市外」の割合が19%と、他地域と比較して高くなっています。回答者が多い湖北台1～10丁目の駅周辺に居住する方が市外の医療施設を利用する傾向があります。

普段利用する医療施設までの主な交通手段は、「自家用車」が最も多く（57%）、次いで「徒歩のみ」（17%）、「バス」や「電車」の公共交通の利用（計14%）となっており、日用品の購入に比較し、遠くの施設を利用する傾向も窺えます。

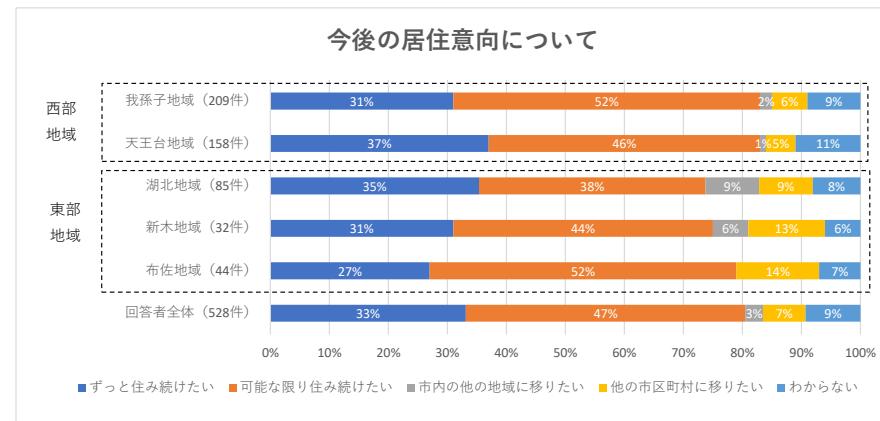
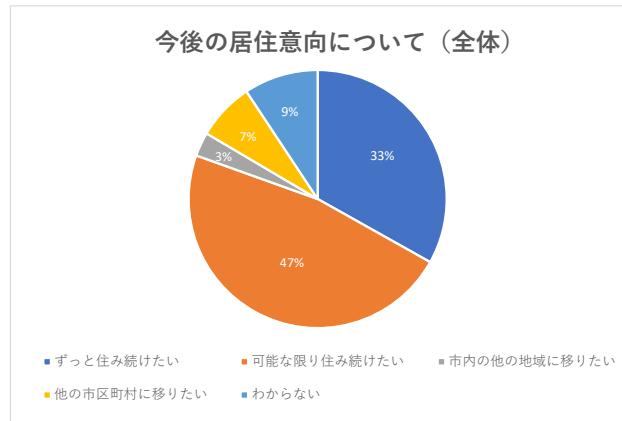
居住地域別では、西部地域の我孫子地域は「徒歩のみ」の割合が他地域と比べて高く（29%）、「自家用車」の割合が低くなっています（44%）、市東部地域は総じて「自家用車」の割合が高く、なかでも新木地域・布佐地域は8割近くが「自家用車」利用となっています（78%・80%）。

医療施設までの所要時間は、「10分未満」（36%）、「10分以上15分未満」（31%）、「15分以上」（33%）といずれも同程度となっています。

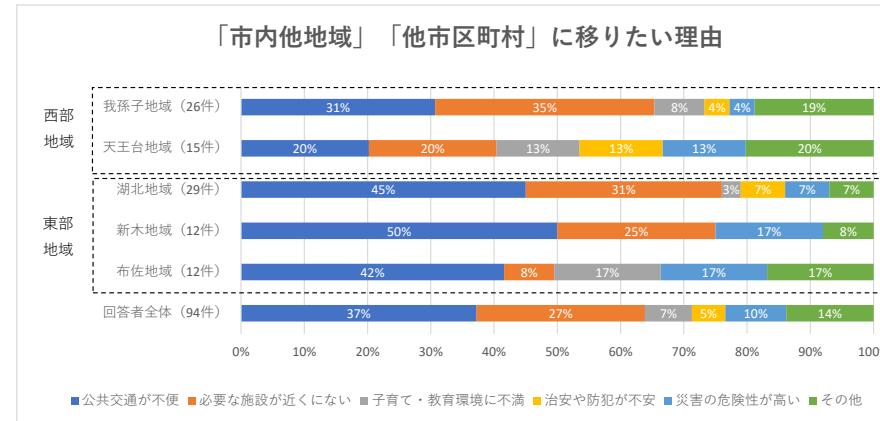
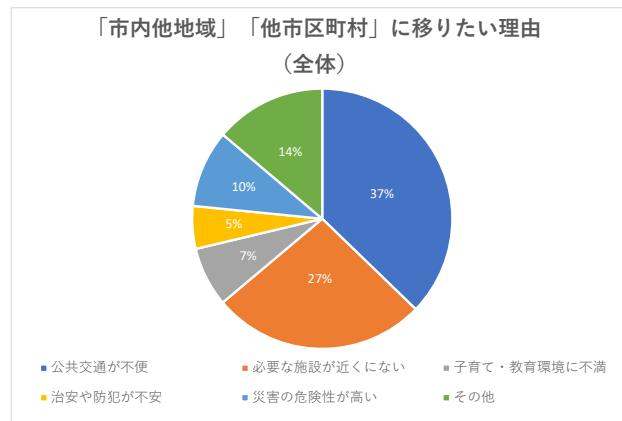
居住地域別にみると、他地域と比較して「お住まいの地域内」の割合が最も高い我孫子地域は「10分未満」（44%）が、「市外」の割合が最も高い東部地域の湖北地域は「15分以上」（48%）がそれぞれ高くなっています。□

III 居住意向について

■今後の居住意向



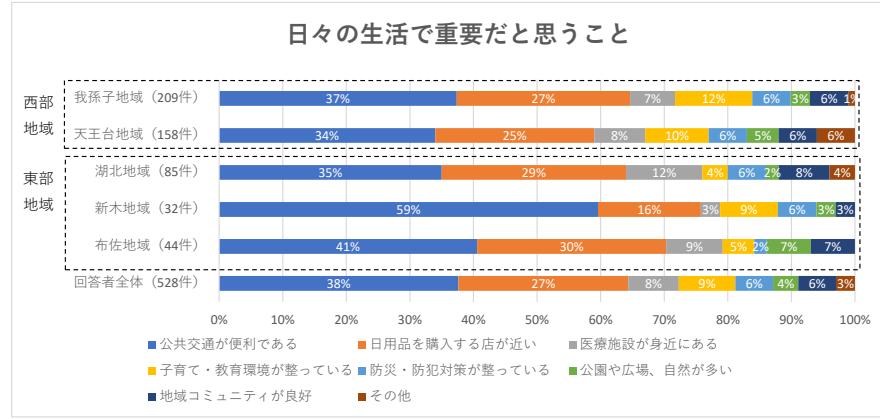
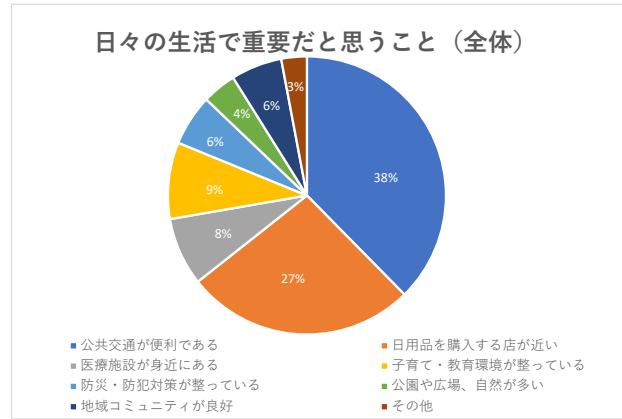
■「市内他地域」「他市区町村」に移りたい理由



■「市内他地域」「他市区町村」に移りたい理由（その他）※自由記入・原文ママ

- ・親のことを思ったり・景観が良いところに住みたいから・市営施設の環境や生活環境が隣の市と違すぎる・行政機関が、分かりづらい。場所。駐車場も小さい。
- ・勤め先としての、企業や工業、産業が近隣の市と比較して少ない。首長が長期に渡り勤続していくことにより、行政がマンネリ化している。税金、保険料、水道料金などが高い。交通渋滞がひどい東葛地域の発展が進まない現状を打破する為、東葛市町村の合併による政令指定都市を実現すべきです。・カフェや商業施設が少ない・自治会がメンドウ・周りが高齢者ばかりで気分が落ち込む。・賃貸から戸建へ移りたい
- ・生活圏の渋滞が酷いこと。特に、県道7号から国道6号に出るときの台田交差点は、信号待ちで動かない。通勤時や休日の移動に支障をきたしているため、早急に渋滞を改善してほしい。つくし野通りを西方向に延長し、根戸エリアに接続するように道路を整備してほしい。・356号線の歩道がせまくて危険。大型トラックが通ると自宅が揺れて不快。騒音もうるさく、窓を開けられない。
- ・我孫子市は、生活中にお店が少ない。車が無いと不便。近隣の市外にはあるが我孫子市には無い施設・大型スーパー等が沢山ある。市内の東地区は電車が単線。

■日々の生活で重要だと思うこと



■日々の生活で重要だと思うもの（その他）※自由記入・原文ママ

・穏やかな生活・元々親の代からすんでいるところです 他には考えられない・家を購入したから・元々住んでいたから
 ・川が氾濫する不安から解放されれば住み続けたい・行政を改革して効率化し、無駄な支出を削減し、保険税、固定資産税を含めて大幅な減税を実施すべきです。
 ・Q9-2と同様。渋滞緩和のための対策を行ってほしい・身内が近くに居住・商業施設・資産価値が落ちないこと。
 ・市の補助や高齢者への待遇が他の市や県のほうが手厚い。歳をとった時に何処に住んでいるか…は大切なことをと思う!
 ・老若男女問わず市の政策の恩恵を受けるようにして欲しい。生きしていくための最低限の道路や水道などのインフラが整っていることが重要です。他の市町村と比べて、お金がないのに無理に子育て支援に税金を使わないでほしい。給食費を無理してねん出しないでほしい。給食費を安くしての人口は増えません。インフラ整備が地価を上げて、市の価値を高めていると思います
 ・生活すべてを我孫子市内で完結することは難しいですし、それが悪いとは思っていません。買い物は柏市や、流山市に出ることが多いです。また週末は東京へ車で移動しています。なので、16号線や6号線の渋滞が緩和されれば良いと思います。また、手賀沼沿いは緑豊かな環境のため、歩行者や自転車が多いにも関わらず、手賀沼ふれあいラインの環境が悪いため危ないなど感じることもあります。交通状況を改善してもらえると助かります。・少なくとも東葛地区で何においても一番発展していない。

今後の居住意向については、「可能な限り住み続けたい」（47%）、「ずっと住み続けたい」（33%）の回答が全体の8割を占めています（80%）。また、「他の市区町村に移りたい」が7%と、「市内の他の地域に移りたい」の3%を上回っています。居住地域別にみると、東部地域はいずれも全体と比べて「住み続けたい、可能な限り住み続けたい」の回答が低い傾向があります。「住み続けたい」という回答が最も少なかったのは湖北地域で（73%）、「市内他地域」、「他の市区町村」に移りたいがいずれも9%となっており、そのうち9割超が「公共交通が利用しづらく不便」と回答しています。新木地域は「市内他地域に移りたい」（6%）よりも「他の市区町村に移りたい」が多く（13%）、布佐地域は「他の市区町村に移りたい」が最も高い14%で、回答者は20歳代～60歳代でしたが、「市内他地域に移りたい」という回答はありませんでした。□

「市内他地域」または「他の市区町村」に移りたい理由としては、「公共交通が利用しづらく不便」が最も多く（37%）、次いで「必要な施設が近くにない」となっています（27%）。

居住地域別にみると、東部地域はいずれも「公共交通が利用しづらく不便」の割合が全体の割合を上回っています。西部地域の我孫子地域は「公共交通が利用しづらく不便」（31%）より「必要な施設が近くにない」ことを理由にあげています（35%）。「市内他地域」「他の市区町村」に移りたいとの回答した割合が最も低い天王台地域は、いずれの理由も満遍なく網羅していますが、「公共交通が利用しづらく不便」の割合が他地域と比べてかなり低い割合となっています。東部地域のうち新木地域は「公共交通が利用しづらく不便」の割合が50%となっています。布佐地域は、他地域で2番目に多い理由である「必要な施設が近くにない」ことよりも（8%）、湖北地域では3%、新木地域で理由として挙げる回答がなかった「子育て・教育環境に不満がある」が高くなっています（17%）。

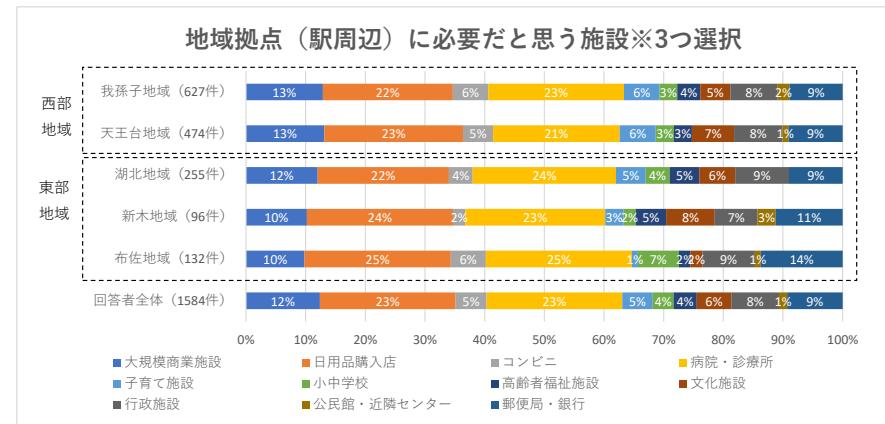
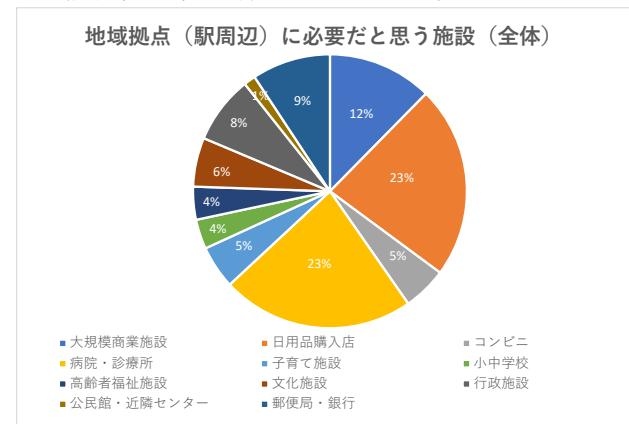
「その他」（自由記述）として、交通渋滞や近隣市と比較して店舗や勤務する企業や工業・産業が少ない、市営施設や生活環境に不満がある等の回答がありました。□

日々の生活で重要だと思うことは、「公共交通が使いやすく便利であること」が最も高く（38%）、次いで「日用品を購入するお店が近くにあること」（27%）、「子育て・教育環境が整っていること」（9%）となっています。居住地域別にみると、「公共交通が使いやすく便利であること」は東部地域の新木地域が他地域に比べて最も高くなっています（59%）。新木地域の中でも、駅から遠い新木・新木野1～4丁目に居住する方の回答が多く（約92%）、駅に近い南新木1～4丁目の40%を大きく上回っています。湖北地域・布佐地域は「子育て・教育環境」より「病院等医療施設が身近にあること」の割合が高くなっています。

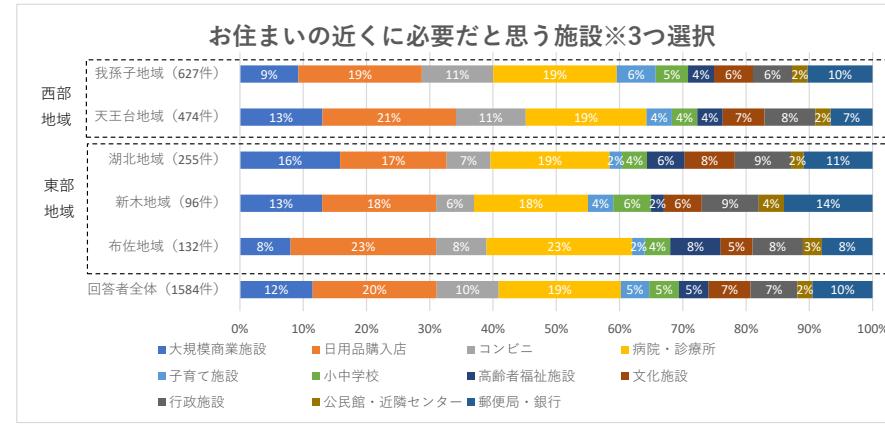
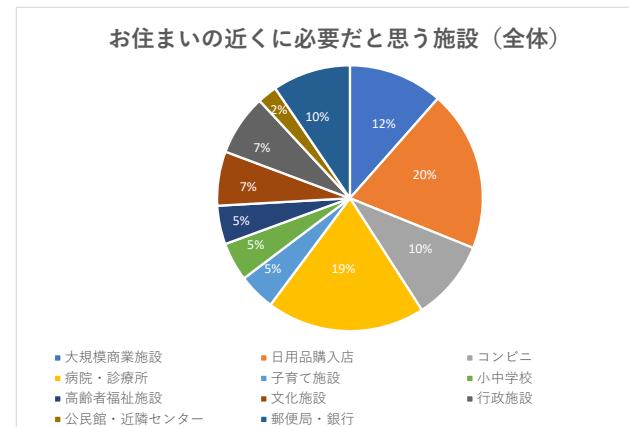
「その他」（自由記述）として、市の補助や高齢者への待遇、商業施設、道路や水道などのインフラが整っていることなどの回答がありました。

IV 地域拠点におけるまちづくりについて

■地域拠点（駅周辺）に必要だと思う施設※3つ選択



■お住まいの近くに必要だと思う施設※3つ選択



地域拠点（駅周辺）に必要だと思う施設については、市全体で「日用品を購入するお店」及び「病院・診療所」が最も高く（各23%）、次いで「大規模商業施設」（12%）、「郵便局・銀行」（9%）となっています。居住地域別でみても、おおむね市全体と比べて大きな特徴はありませんが、新木地域・布佐地域については、「大規模商業施設」より「郵便局・銀行」の割合が高くなっています。

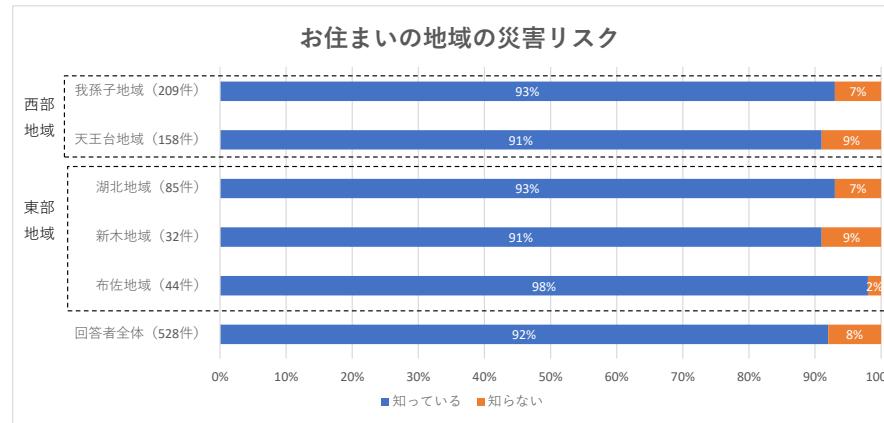
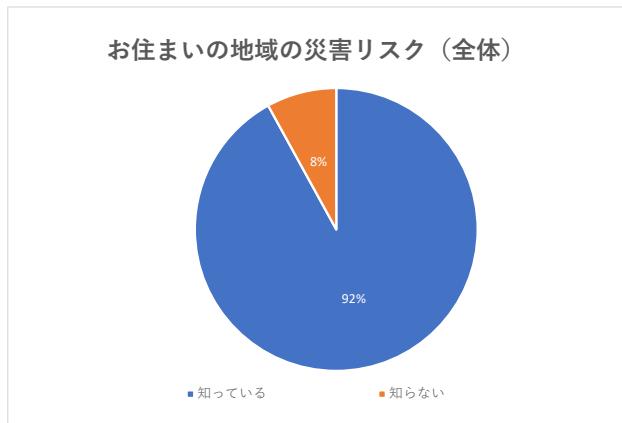
お住まいの近くに必要だと思う施設については、「日用品を購入するお店」が最も高く（20%）、次いで「病院・診療所」（19%）、「大規模商業施設」（12%）、「コンビニエンスストア」「郵便局・銀行」（各10%）となっています。

地域拠点と比較すると、「コンビニエンスストア」の割合が高くなっています。小規模であっても住居近くに飲料品・食品を中心とした店舗が必要とされていることがわかります。

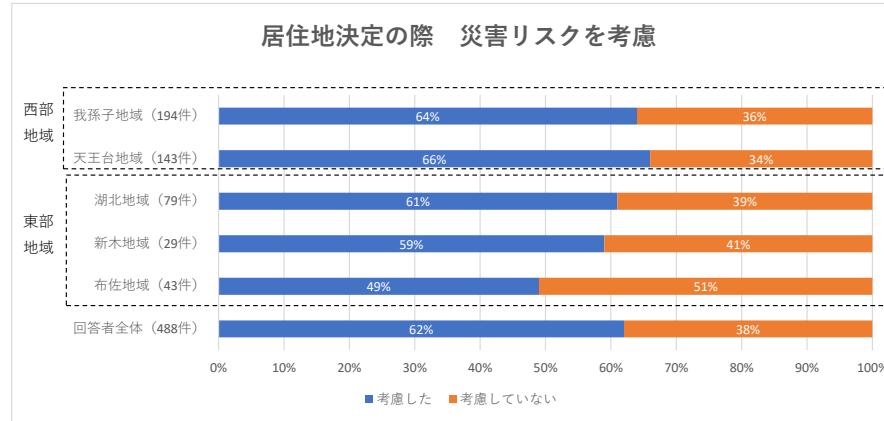
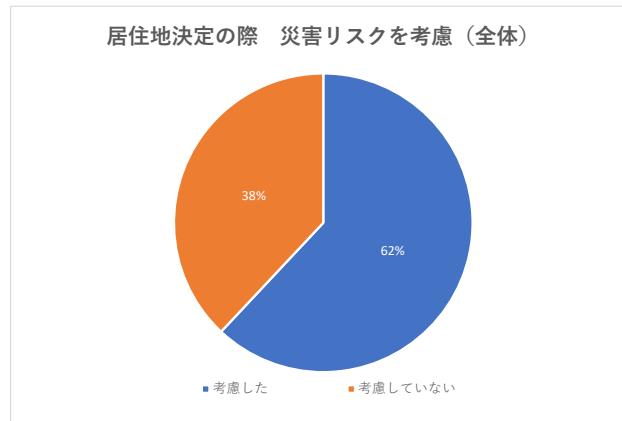
こちらについても地域による差はありませんが、新木地域では「コンビニエンスストア」の割合が他地域に比べると低く（6%）、「郵便局・銀行」の割合が他地域よりも高い（14%）ことが分かります。

V 防災について

■お住まいの地域の災害リスクについて



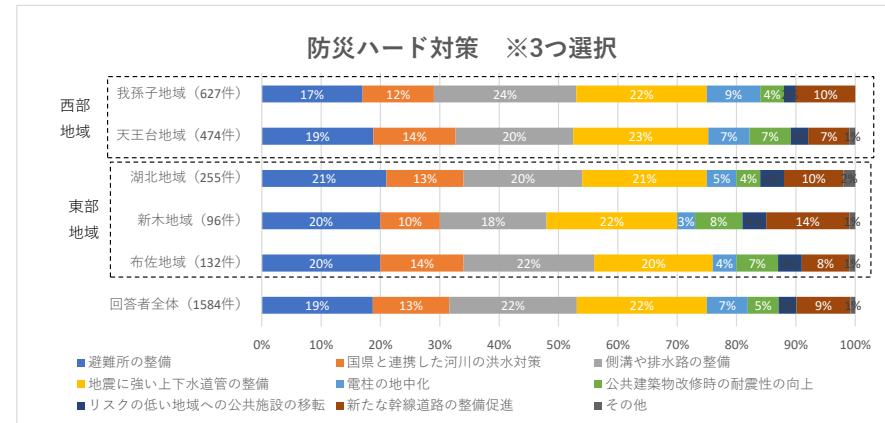
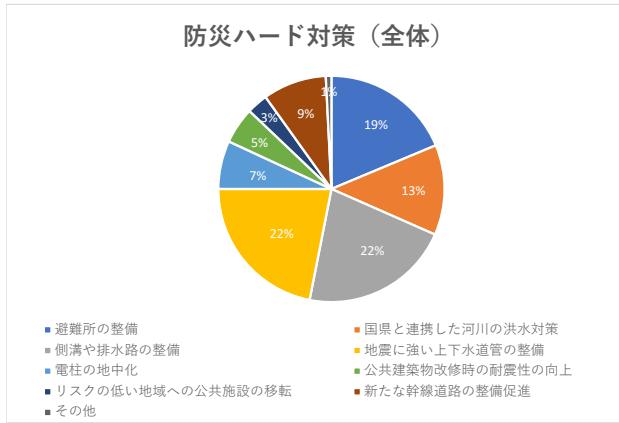
■居住地決定の際 災害リスクを考慮したか



居住地の災害リスクについて、「知っている」が92%と、非常に高い割合であることがわかります。居住地域別でみると、東部地域の布佐地域では「知っている」が98%で、他地域と比較しても高い割合です。

居住地を決める際、災害リスクについて「考慮した」は62%となっています。居住地域別にみると、布佐地域は半数が「考慮していない」と回答しており(51%)、「考慮している」割合(49%)より高くなっています。居住年数別でみると、いずれの地域においても「居住年数10年未満」までの方の8割以上が居住地域を決める際、災害リスクを「考慮した」と回答しており、中でも新木地域・布佐地域は居住年数10年未満の全ての方が災害リスクを「考慮した」と回答しています。

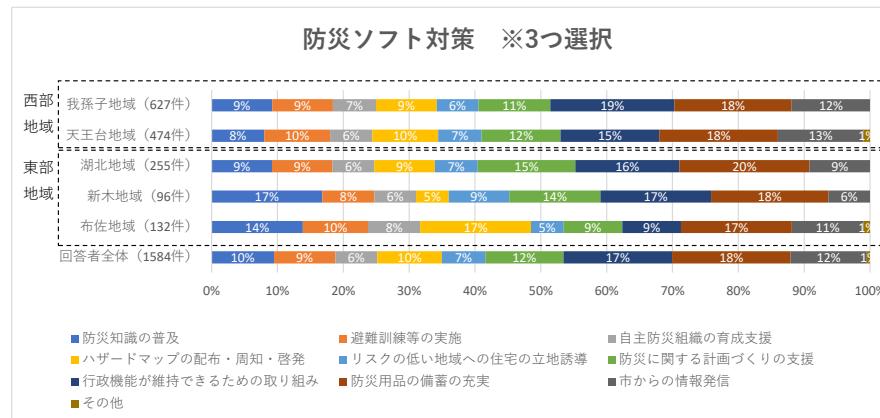
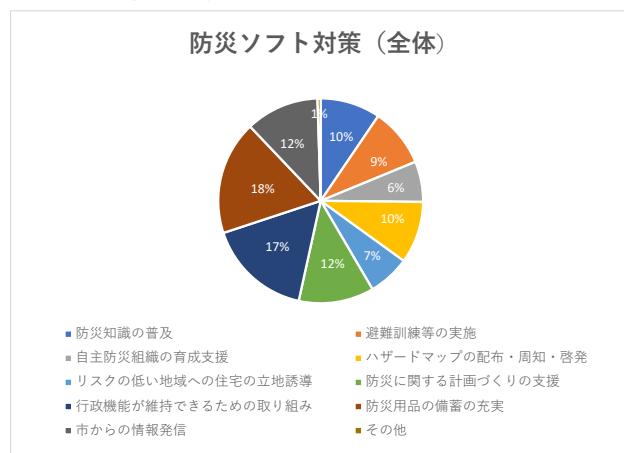
■防災ハード対策※3つ選択



■防災ハード対策（その他） ※自由記入・原文ママ

・住宅の耐震、免震に関する補助等。既にそういう補助があるのであれば市民への周知
 ・自衛隊派遣を待つのではなく現存の公共施設全ての上階に災害対策の資材用材を確保し職員は常日頃防災訓練を実施し危機管理能力向上をはかり我孫子市の各地域と市民へ周知徹底をはかり火災倒壊のリスクを読み込んで既存の施設を利用しリスク軽減をはかり生存率を上げるべきではないでしょうか!
 ・知識・行う必要はない。・土砂災害を予防する対策・外国人が多くすぎる。・緊急放送が聞こえにくい地域にいるので、放送設備や通信インフラ整備の強化をお願いしたい。
 ・私の住んでいる所は土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域になります。そのような通知が去年届いたのですが大雨や地震があるたびに不安で仕方がないです。なのに残りの住宅ローンを払って住んでいるのがしんどいです。市や県などで違う土地を提供してもらえないものかなと考えたります。
 ・災害のおきた地域などで治安が悪くなるとよく聞きます。女性や子どもが襲われる、盗難がおきる、その他色々。災害後の治安を守るも考えていただきたい。
 ・浸水区域にある図書館などの公共施設を、浸水区域外の高台に移転をして欲しい。今後、人口減少し、財政悪化する状況で、浸水等の災害復旧に税金を投入するのは、更なる財政悪化、住民の流出を招いてしまうため。
 ・自衛隊派遣を待つのではなく現存の公共施設の全ての上階に避難場所と設備用材を確保し常日頃各職員の危機管理能力向上をはかり市民に熟知徹底をはかる努力をする事。倒壊火災を想定し現存の施設全て活用しリスク軽減をはかっていただきたい。

■防災ソフト対策※3つ選択



■防災ソフト対策（その他）※自由記入・原文ママ

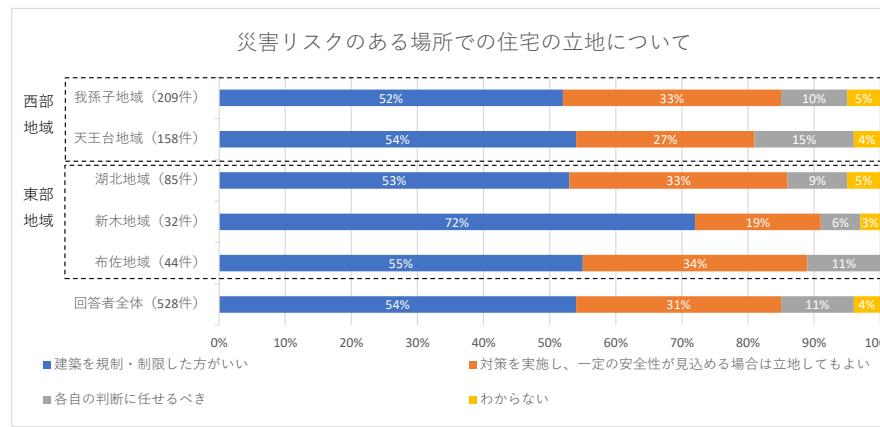
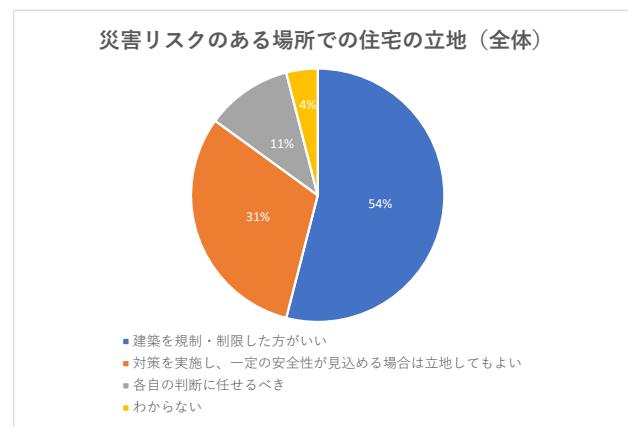
・防災無線は聞き取りにくい地区があり、高齢者にSMSを確認ということを望むのも確実性のないものと、おもいます。町会が昔のながれて隣に住んでいるにもかかわらず違う町会であったりするところをまず替えていくのも一つの案ではないでしょうか
 ・高齢者は避難が必要な場合でも長年住んだ家から離れたくないと仰る人が多いです。避難指示に従わず、そういった高齢者を救出するために2次被害が起こることがありますため高齢者に対する避難の必要性の教育が必要。若い先輩からと避難しないと周りに迷惑が掛かることも理解してほしい。
 ・風に流れて防災あびこは聞き取りづらい 本当に緊急の時に聞こえなかったら意味が無い・防災無線を聞き取りやすくしてほしい 反響して聞き取れない為
 ・災害時に情報難民となるような、情報共有媒体や設備の充実・街灯が少なすぎる。
 ・広報活動を拝見しているとあまり我孫子市にSNSを得意とする人材がいらっしゃらないかと思うので、無駄に予算を組まず、もっとハード面に注力していただきたいです。

防災ハード対策については、「地震に強い上下水道管の整備」「大雨による被害を防ぐための側溝や排水路等の整備」が最も高く（22%）、次いで「避難所の整備（増設・機能拡充）」（19%）となっています。居住地域別にみると、我孫子地域と布佐地域では「大雨による被害を防ぐための整備」が「上下水道管の整備」よりもやや高く（24%・22%）、新木地域では他地域と比べて「災害時の交通機能強化となる新たな幹線道路の整備促進」がやや高くなっているものの（14%）、各地域とも市全体と比べ特徴的な傾向はありませんでした。

「その他」（自由記述）として、防災無線にかかる放送設備や通信インフラ整備の強化や、土砂災害警戒区域・特別警戒区域等にかかる土地の住民への助成、住宅の耐震・免震に関する補助等（市民への周知含む）等がありました。

防災ソフト対策については、市全体では「防災用品（食料・衛生用品・マット等）の備蓄の充実」が最も高く（18%）、次いで「災害が起きた場合に行政としての機能が維持できるための取り組み」（17%）、「地域と行政が連携した防災に関する計画づくりや支援」（12%）、「防災無線やSNSなど、市からの情報発信」（12%）となっています。居住地域別でみると、新木地域と布佐地域は「防災に関する知識の普及（市民講座の開催や情報提供）」が回答者全体と比較して高くなっています（14%、17%）。また、布佐地域は「ハザードマップの配布・周知・啓発」が回答者全体と比較して高く（17%）なっています。

■災害リスクのある場所での住宅の立地について



【災害リスクのある場所での住宅の立地】

災害リスクのある場所での住宅の立地については、「建築を規制・制限した方がいい」が半数を超えていました（54%）。居住地域別にみると、新木地域は「建築を規制・制限した方がいい」が72%であり、他地域と比べ高い割合となっており、「各自の判断に任せるべき」も5地域中最も低い割合となっています（6%）が、災害リスクの低い南新木の回答者が多い傾向にあります。その他の地域については、市全体の結果と大きな差はありませんでした。

市全体においても、災害リスクの低い居住地域と建築の規制等については相関の傾向があります。